

令和 8 年 2 月 26 日開催
令和 7 年度 第 3 回朝来市環境審議会における指摘と対応について（案）

	区分	指摘事項	対応
報告事項（１）令和 7 年度第 2 回朝来市環境審議会に係る指摘と対応について			
1	ダムや堰の分布に関する調査について	ダムや堰については規模の大小や工法が様々あるため、議論できることもある。現在は中国種オオサンショウウオの侵入脅威が高まっており、侵入時の対策検討への活用も見据えて分布状況を把握しておけるとよい。[高木委員]	ダムや堰の位置に関するデータについては公表されておらず、また朝来市では所有していないため、兵庫県に有無を確認いたします。
2	開発や工事に伴う生物への保全対策の必要性について	オオサンショウウオに関連する朝来市の問題として、事前の調査や保全対策をせずに井堰や落差工等の工事を進めていることが挙げられる。例えば樹木の伐採を行う際にはコウノトリや猛禽類への配慮がなされているが、同じ天然記念物であるオオサンショウウオに対して同様の対応がなされていない。本来は保全対策をすべき事項なので、本気で着手してほしい。[岡田委員]	ご指摘の事項については、庁内の関連部局と連携し、対応を検討いたします。
3		農地の基盤整備事業を進めると本来の環境自体が損なわれることになる。また、稲刈り時の体感として生きものは無農薬の田んぼの方が多い。将来に向けて、コウノトリが田んぼで生きものをついばむことができるような農地環境が失われないよう、生物・生物多様性の保全を加味した工事を行うことが大切である。[村上委員]	
協議事項（１）朝来市の生物多様性の現状と課題について			
4	リストの出典資料について	1990 年代の資料が多く直近の資料が少ないため、データをうのみにしてよいか疑問である。 [椿野委員] →肌感覚として、現状の生物はかなり減っているのではないかと、あるいはもう見つからないものがたくさん出てくるのではないかと。ただ、今回現状を十分に把握し戦略に盛り込むことは難しいだろう。[石田会長]	朝来市の自然環境に関する資料が不足していることは、課題として認識しています。戦略で定める施策の中で、朝来市の生物多様性の現況を把握するための調査等を位置付けたいと考えています。
5	カエル類について	田んぼの生きもの調査や夜の鳴き声などから、トノサマガエルが減っているように感じる。また、山際の水田では、シュレーゲルアオガエルの卵が水田の中に浮き始めている。[村上委員]	市民が特に減少していると感じている生きものの中にカエル類が含まれています（資料 2、6p.）。今後、市民参加型の生物調査を行う際に、カエル類を含むこれらの生物を指標生
6		カエルについては、今でもいるが、単純化して昔と構成種数が変わっている場合もあるので、指	

	区分	指摘事項	対応
		標としてとてもよいと思われる。[岡田委員]	物に位置付けることを検討いたします。
7	アンケート結果について	中学生のアンケートからは、この世代が生物の問題についてどのように考えているのか、若者の意見としてしっかり把握することが大事である。学校教育・探求の時間に組み込めないかと考えている事項については、既に多種多様なテーマが組み込まれている状況にあるので、教育委員会や小学校等と相談しながら優先順位をつけた上で検討することが肝要ではないか。 市民アンケートからは、回答率 4 割程度という結果から、市民の忙しさが示されたように思う。よって、市民活動を支える層が薄くなっているともいえ、市民団体の育成などはどこまで可能なのか、改めて考えてみる必要があるのではないか。[増原委員]	現在、小学 3 年生の単元として体験学習が設定されています。また、生野高校と和田山高校においては、市も協力した探求活動を実施しており、この対応は継続したいと考えています。 中学生の探求活動については、部活動が地域移行されるタイミングで、市と協働したサロン等の受け皿を作ることを検討いたします。
8		観察会を行うと、子育て世代は自然環境やその分野の子供への教育について関心が高い印象であるが、アンケートからはその傾向がそれほどみられなかったのが残念である。実際はどうか、もう少し把握できるとよい。[岡田委員] →地域自治協議会へのヒアリングでは、観察会活動の要望は出されていたが、同時に講師不足の課題も示された。[事務局]	市民アンケートの分析結果より、一般的に子育て世代にあたる 30~40 代では、「屋外での自然とのふれあい」に関する関心が他世代より高く、親子で参加できるような体験型イベントを求めている傾向が見られました(参考資料 1-1、148p.)。
9	アンケートの自由記述について	面白い内容が含まれているので、ある程度分類してわかりやすく示してほしい。[増原委員]	ご指摘を踏まえ、自由記述の分類や、年代別のクロス集計を実施し、参考資料 1-1 で整理しました。自由記述の分類結果は各設問ごとに、クロス集計の結果は 121p.以降に記載しています。
10		年代別のクロス集計などをしてもらえるとよい。[天野委員]	
11	自治協議会や市民団体へのヒアリング結果について	市全体で把握し市民全員でやっていくことと、自分の住んでいる地域を知る、という両面の情報が得られている。今後、地域ごとの特色や課題、それに向けた戦略を整理する上で有益な情報と思われる。[増原委員]	ご指摘を踏まえ、戦略では地域を区分し、課題や重点的に取り組む施策を整理したいと考えています。 旧 4 町による区分や、例えば「山林」「農地」「市街地」というような環境での区分を検討しています。
12		地域区分をすると自分事でとらえることができる。戦略では、地域区分をして、地域の情報をしっかり盛り込むとよい。[石田会長]	

	区分	指摘事項	対応
13		昔はできたが今はできなくなったことや昔と今で状況が変わったことなどの話が多数出ているので、時間軸で昔と今と未来を比較できる資料があるとよい。[天野委員]	過去～現在～未来にかけての朝来市の変化については、過去～現在はヒアリング等の情報、未来は「めざしたい姿」や「基本戦略」を踏まえ、イラストで整理することを検討いたします。
14		河川や流域ごとに分けたヒアリング調査はされていないのか。[椿野委員] →ヒアリングは、ざっくりと実施しており、河川や流域ごとの情報としてはしていない。[事務局] →河川や流域ごとに分けたヒアリング調査はされていないとのことだが、資料を精査すると出てくるかもしれない。あるいは、その観点から改めて有識者ヒアリングを実施してもよいのではないか。[石田会長]	
15	追加のヒアリングについて	戦略策定以降の連携によるモニタリング実施なども見据えて、「但馬虫の会」の近藤様や中学・高校の科学部、生物部などもヒアリング対象にするとよいのではないか。[増原委員]	農業・林業従事者および市井の有識者等への追加ヒアリングとあわせて、実施するかを検討いたします。
16	タウンミーティングにおける意見について	現状と課題についての意見も得られていれば、資料に盛り込んでおいた方がよい。[石田会長]	第2回タウンミーティング(2026年2月1日実施)の参加者から意見があった課題を整理いたしました(参考資料1-2)。これらの課題も踏まえて、資料2に朝来市の課題を整理しました。
協議事項(2) 朝来市生物多様性地域戦略の「めざしたい姿」と「基本戦略」について			
17	スローガンについて	2番は、内容はよいが何が目的になっているのかわからない。現在の文章の前に「生物」や「多様な生物と共生し」等があるとよい。[高木委員、石田会長]	皆様からのご指摘を踏まえ、「めざしたい姿」と「基本戦略」について再検討いたしました(資料4)。協議事項(1)の中でご確認、ご検討いただきたいと思います。
18		生物多様性戦略のスローガンなので、「生きもの」や「生物」、「多様な命」等、生きものに関する言葉が一つある方が、他の計画のスローガンと差別化ができてよい。また、第3次朝来市総合計画の「幸せが循環するまち」というスローガンは比較的市民に浸透していると感じており、	

	区分	指摘事項	対応
		このような市民が親しみやすく、簡潔で、覚えやすいフレーズが望ましい。 また、朝来市には自然の環境が当たり前にあるので、貴重で大事にしなければいけないものという感覚が市民には少ないように感じる。よって、まずは市民にたくさんの生きものがいる、貴重な自然があるということに「気づいてもらうこと」が一番大事だと考えている。その上で、「楽しみ、学び、行動し」につながるのではないか。「気づいてもらうこと」をスローガンに組み込めないか、検討いただきたい。3つの案は素敵なのだが、これらだと、多くの市民にとっては少しハードルの高いところからのスタートのような気がする。[天野委員]	
19		2番の「享受」の用語について、朝来市の想いは理解するが、硬い言葉で、皆が口ずさむにはハードルが高いという印象である。用いる場合には説明を併記する必要があるだろう。なお、用語自体はおそらく憲法に入っているので中高生も理解すると思われる。[増原委員]	
20		三田市や川西市の例が示されているが、明石市も現在戦略作成中で3月公表予定なので、参考にするとうい。[増原委員]	
21		朝来市が「楽しむ」というような言葉を入れることを重要視しているのであれば、その用語は入れるとういと思うが、学ぶことも重要なので、「学ぶ」を先にし、後に「楽しむ」とするのがよいのではないか。[藤原委員]	
22		「楽しむ」・「学ぶ」・「行動する」・「つなぐ」の4つの言葉を示した基本戦略の図は、「楽しむ」ことや、生活する上で自然に人々がする「行動」、プラスアルファとして「学ぶ」ことや「自然保護」があり、この4つが「自然環境の保全」につながり、保全することで更にまた(=再び)市民のほうに恵みが降りてくるという「循環」を表していると思われた。よって、4つ文言が「めざしたい将来像」に直接向かっていく図ではなく、また戻ってくる、循環する、という表現が入っていたほうがわかりやすいのではないか。 また、中学生アンケートで「生活の中で無理がない範囲でできることがあったらやりたい」と	

	区分	指摘事項	対応
		いう意見も多かったこともふまえ、「生活する上で自然にする行動のアップグレード」のような視点が必要だと思われる。4つの文言の「行動する」に入るかもしれないが、「普段の生活のアップグレード」、「自然の保全に役立つ方法でのアップデート」などを入れられるとよいのではないか。[高木委員] ➡「循環」の文言は、総合計画のスローガンとも整合性がある。この用語そのものを使うかどうかは別として、このイメージや理念のようなものを生物多様性の方でも示しておくことは重要だろう。[石田会長] ➡総合計画に「人と人」という文言があるが、学んだり行動したりする時の人のつながりもあるし、自然の恵みが我々の生活を支えているというところへの気づきや循環、つながりのようなことが、“未来”につながるだけではなくて、自然の恵みが人の方に来るといようなニュアンスで、どこかに入ればいいと思う。[増原委員]	
23		「豊かな自然」や「豊か」、あるいは「恵み」、あるいはそれを皆で「わかちあう」とか「つなぐ」という言葉は重要だと思うので、上手く入るとよいのではないか。[石田会長]	
24		スローガンは、事務局の想いだけでなく、ベースとしてのアンケート結果も重視すべきと考える。アンケート結果の分析はこれからとのことなので、それもふまえた意見交換を継続していき、スローガンを固めていってはどうか。[岸野委員] ➡市民アンケートでは、生活する上での自然からの恵みについて充分理解していない人が比較的多い印象だったので、市民アンケートの意見をどの程度反映させるかは難しい。朝来市がめざす方向と異ならないよう、有識者意見も交えて検討するとよいのではないか。[高木委員] ➡スローガンは、どちらかの意見に偏るといったことのないように検討していきたい。今回の会議で決定まではせず、様々な意見出しやアンケートの分析結果もふまえて、次回位で決定したい。[石田会長]	
25		スローガンと基本戦略を対応させるのは、それができたら美しいとは思われるが、難しいの	

	区分	指摘事項	対応
		ではないか。よって、まずはスローガンをつくることし、基本戦略はその後につくるが、その際に必ずしもスローガンの文言を使わなくてもよいという形で進めてみてはどうか。 あるいは、副題の方に基本戦略となるような言葉を上手く散りばめられると綺麗かと思う。 その意味で、今の段階では3番目の案が比較的妥当ではないか。[石田会長]	
協議事項（3）朝来市生物多様性地域戦略の骨子（構成と項目）について			
26	象徴となる生きものの設定について	豊岡市は生物多様性の文脈でコウノトリを中心にしているが、これにより他との差別化が図れ、象徴としてのメッセージもわかりやすくなっている。朝来市では、オオサンショウウオを中心にすることを考えてみてはどうか。 また、自治協議会のヒアリング結果で、山東町では水田、生野や朝来では河川に関心のある方が多いということだったので、山東町で象徴的な生きものはコウノトリ、生野や朝来ではオオサンショウウオ、というように地域ごとに象徴的な生きものを分けてもよいと思う。[高木委員]	地域ごとに象徴的な種を設定することについては、戦略中の地域区分をどう設定するかにも関係するため、並行して検討いたします。
27	戦略骨子の第2章、2-1、4)産業について	「農地生態系」という言葉があるように、農地は独特で重要な生態系なので、「総農家数および経営耕地面積の推移」については、統計データから整理できるもの以外の情報も整理できるとよいのではないかと。現状をよく知る村上委員もいるので、「コウノトリ育む農法」や有機農業など、従来型の一般的な農業以外の生態系と関わる農業についても取組面積や金額等の情報を収集整理してもらいたい。[増原委員]	該当する情報の有無について、関係各課に確認いたします。

以上